

令和元年度 第1回 独立行政法人地域医療機能推進機構仙台南病院地域協議会議事録

日 時：令和元年8月29日(木) 19時00分～20時00分

場 所：病院3階 第二・第三会議室

出席者: 小野 幸治 (仙台市太白区保健福祉センター 所長)
宇田 孝康 (名取市健康福祉部介護長寿課 課長)
芳賀 和明 (名取市健康福祉部保健センター 所長)
今村 幹雄 (仙台市太白区医師会 代表幹事)
丹野 尚昭 (名取市医師会 会長)
三浦 勇 (下前田東町内会 会長)
秋山 征吾 (下前田前沖町内会 会長)

朝倉院長・秋野副院長・遠藤副院長・藤原事務部長・鈴木看護部長・開沼副看護部長・
奥山附属介護老人保健施設看護師長・高橋総務企画課長・高谷総務企画課員(事務局・書記)

議事内容(高橋総務企画課長進行)

・仙台南病院協議会次第にそって

1. 開会

2. 院長挨拶

外部委員の皆様には、ご多忙のところ、また、遅い時間にもかかわらず仙台南病院地域協議会にお越し頂き、大変ありがとうございます。

地域協議会の開催の一番の目的は、地域の方々の当院に対するご意見、ご要望を聞くということですので、皆様方から率直な意見を頂戴できれば幸いです。

本日は、よろしくお願い致します。

3. 委員の紹介

本日出席頂いた各委員について、外部委員、内部委員の順に紹介を行った。

4. 概況説明等

<概況>

(1) 施設・病棟運営状況等(藤原事務部長)

施設運営状況として、病床数・標榜診療科・患者数(病院・附属老健)・健診利用者数について病棟運営状況等として、病棟別1日平均入院患者数と稼働率・診療科別1日平均入院患者数・診療科別医師数・地域連携の状況(紹介患者数・紹介率・逆紹介率・登録医数・救急車受入状況)について、資料に沿って説明。

- (2) 平成30年度及び令和元年度における地域包括ケア推進に向けた取り組みと活動計画について
(藤原事務部長)

平成30年度地域包括ケア推進に向けた取り組みとして、PRのための広報誌等の発行、地域の方々からの情報収集と情報交換、地域包括ケアを担う方々への情報提供と支援の3点について取り組んできたことを、資料に基づき説明。

また、令和元年度についても、この3点について継続的に取り組んでいくことを説明した。

<取組の紹介>

- (3) 私の人生会議～もしものときのための準備について～(鈴木看護部長)

人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関し厚生労働省において作成されたガイドラインに基づいて当院が作成した「私の人生会議」について、資料に基づき説明。

- (4) 出前講座のご案内について(開沼副看護部長)

当院において、企業、団体、学校、地域住民などの会合への訪問による教育・研修を積極的に実施していくことについて、資料に基づき説明。

5. 質疑応答及び意見要望等

司会を朝倉院長へ交代

:朝倉院長

今の当院からの説明について何かご質問等あればよろしくお願いします。

:仙台市太白区保健福祉センター所長 小野委員

仙台市、名取市どちらの方面から患者さんがいらっしゃっていますか。また、地域包括ケア病棟の平均在院日数と在宅復帰率を教えてください。

:開沼副看護部長

どちらの地域の患者さんが多いかということですが、太白区、若林区の方が多いんですが、あと名取市、岩沼市の方面の方も多い現状です。

:朝倉院長

地域包括ケア病棟ですけれども、医療法上60日という縛りがあるんですけれども、中には60日を超えてしまう患者さんもありますが、原則的には60日以内でお帰しすることになっています。

また、在宅復帰率ですけれども70%というラインが出されていて、JCHOは厳しい在宅復帰率が課されており、70%を超えて80%、85%というところを目安にして、なるべく多くの方に在宅に帰っていただくこととしております。ただ最近是在宅での介護がなかなか容易でないということで、施設にお願いするという感じです。特に昨年から老健施設に帰した場合には在宅復帰率に含まれないというふうに変わりまして、在宅復帰率がその中でどうやり繰りして在宅復帰率を上げていくかというのが重要な課題になっています。在宅復帰という前提が急性期の病院からポストアキュートの患者をたくさん受け入れるということとは難しく、その辺の当院の立ち位置が難しいところであります。

:朝倉院長

当院に対するご意見ご要望、ご提言等あればお願いします。

:下前田前沖町内会会長 秋山委員

町内会ではサロン活動というのをやっており、もとは社会福祉協議会ほうからの流れでやっております。この間の河北新報に認知症の件について記事がありまして、2025年に5人に1人が65歳以上ですけど認知症に何らかの関連があるという方向に向かっており、何らかの対応が必要ではないかというような記事がありましたけど、それを見てますます私たちがやっているサロン活動がいいのかなと再確認をしたのですが、個人で認知症の予防をするのはなかなか難しい面があります。仙台南病院も先日、袋原地域包括支援センターと一緒に体操を含めたサロン活動がされました。最近いろいろな催しがある中で体操というか運動が、集まりは昔はお茶を飲んでおしゃべりをするというのがありましたけど、その中に運動を入れるというのはそれが非常に最近喜ばれるというかそういうことを入れることによって集まりが良くなります。病院からいろいろアドバイスをもらいながらやっていただければと思います。私たち単独の町内会でやっていますが、単独の町内会で仙台南病院の方をお願いするというケースもこれから出てくるのかなと思いますし、あるいは包括支援センターと組んで拡大した地域の中でやることもあると思いますので、その節はよろしくお願いします。

:下前田東町内会会長 三浦委員

連合会は11町内会あるわけなんですけど、サロンの推進委員が秋山会長なんです。先日うちの町内のサロン会に社会福祉協議会の方と一緒に来て頂いて、介護予防体操をやられて皆さん喜んでおられました。何のためのサロンかというと、年配の方が流行の言葉で言うと引きこもりですか、何もすることがなくてただ家に居てテレビばかり見ている。そういうことをなくすためにサロンを町内会で作って一年に一回ですけど参加して頂いて、全員に来て頂くためには先ほどの出前講座ですか、その中の骨粗鬆症というものもありますので是非ともうちの方でもサロンでやって頂ければと思っております。サロンに参加している方がそれなりの年の方なので、こういうテーマですと興味もって聞いて頂くと思いますのでよろしくお願いします。

:朝倉院長

地域住民との交流というのは大事で、直接の医療提供ではないのですが、実際に住民の方と接する機会をもって地域に貢献するということも使命だと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。

:名取市医師会会長 丹野委員

感謝しております。いつも言っていますが仙台南病院地域医療連携室ピカイチだと思っています。その理由はたぶん院長先生がある程度まかせるよと言っているのと、比較的小さな所帯、大きいとなかなか難しいと思うんですけど。昨日うちの患者さんで蕁麻疹が原因でショックになった人がいたんですけど、そうそうたる病院で断られて4箇所目でやっと受け入れられました。断られる理由は良くわかるんですけど腹も立たないしそうだろうと思うんですけど、こちらとしてはショック状態で血圧が70、80になって内心穏やかではないですね。言うことわかるんですね、蕁麻疹持っていると皮膚科のある総合病院がいいでしょうって考え方で、そういうところに電話しても今ちよっと取り込んでいるっていうんですね。事情は良くわかってるんですけど。そういう意味では仙台南の連携室は一回切りますよってことで中々でやってくれるんです。病院の場合だと大体連携室にかけて、そこの担当のナース、医者がいないとナース、ナースと話を通じないと先生探しますお待ちくださいと、なかなか待ってる気持ちは辛い部分があるんですけど。仙台南は17人の医者でよくがんばっているなと思います。仙台市内も日中の救急は結構受けている。昨日のは例外でしょうけども、土日はどこも少ないんで難しいんです。救急の数が増えれば入院患者の数が増えると思いました。

:仙台市太白区医師会代表幹事 今村委員

開業医の立場でいうと病診連携でつことで、太白区の場合は、公的病院が市立病院、日赤とJCHOがありますが、我々の感覚でどこに紹介しようかという場合、ここの病院は名取の病院ではないかと思っている人もいるし南の方にロケーションがあるかなと思っています。この病院を太白区の会員にアピールして強める必要があると個人的には思います。病診連携がらみで困るのは、日常診療していて大体高齢者ですけどね、具合悪くてこのままでは老老介護になるから帰せない。これはとってもらわないと困る。しかも近いところがいい。地域医療の観点からすると近くの病院で取ってもらえる病院が非常にありがたい。また、在宅復帰率ということは逆紹介とも関係する。返してくれるとまた我々も連携できる。整形外科の骨粗鬆症の関連で紹介率が増えたということですが、DXA法による骨密度測定器はまだないですか。(入っていない)うちはまだ入っていないんですけど、あれがあると良いですね。我々も超音波法だとかそういうので測るしかないんですけど、腰椎大腿骨で測らなければ評価できないそういう人を年一回はここで測ってもらうようになればいいと思います。

:名取市健康福祉部保健センター所長 芳賀委員

先ほどの事務部長さんから説明していただいた中で一点だけ聞かせていただければと思います。事業内容等の平成30年度の地域住民の方との交流で、健康祭を10月に実施しており、去年は開催前にPRでチラシいただいたりしたんですけど、今年度の計画にないようなんですけど、これって隔年開催とかそういう事情があるんでしょうか。

:藤原事務部長

ただいま当院は電子カルテの導入の準備を進めていまして、12月くらいにシステムを構築しようとやっていると最中でして、例年10月に健康祭を開催させて頂いてまして、今年度についてはタイミングが重なるということもありまして、申し訳ありませんが計画のほうからははずさせていただいています。

:名取市健康福祉部介護長寿課課長 宇田委員

日ごろ大変お世話になっております。名取市でも地域包括ケア、医療と介護の連携を進めていますが、地域の医療機関として、ご相談なり連携をお願いすることが多々あると思いますので、その際には是非ご協力をお願いしたいなと思います。

:仙台市太白区保健福祉センター所長 小野委員

太白区民23万人の健康維持増進ということで、日ごろから仙台南病院さんにはご理解ご協力を賜り誠に御礼申し上げます。私は3月まで市立病院にいて地域医療連携をやった立場からすると、当時は病状の安定した患者さんを次の包括ケア病棟のある病院などにつなぐ時に、こちらの病院に良くいただき有難うございました。太白区の状況なんですけども、人口23万人ですけれども、これは山形市が25万人なんです大体県庁所在地と同じくらい人口があるという中で、この中でも高齢化率が25%近くになっていまして人口にすると5万7、8千人の高齢者の方がいます。これに加えて障害者の方、身体障害、知的障害、精神障害の方を含めると1万2、3千人くらいの方がいらっしゃいますので、あわせると7万人前後の方がいらっしゃるということで、こういった中でいろんな支援を必要とする方が太白区の場合たくさんいらっしゃいます。中でも高齢者の方、それから子供さんのこともそうなんですけども、仙台市としても地域の中でのセーフティネットみたいな形でどうやって支援を必要な人たちを相談につなげて積み上げていくかということの課題認識を持っています。福祉センター7課ありまして職員270名ほどいまして、保健師、看護師、栄養士などいろんな職種のスタッフがそろっているわけなんですけども、なかなか保健師の部分で言えば地域保健活動というところでは、地区担当制が途中からできなくなっているところがありまして、これでは今後、地域の中に入っていくということが出来ないの、今年から保健師の地区担当制を導入したんですけれども、何分若い保健師さん

が多いので昔の地区担当制を知っている経験をした保健師さんというのは大体係長以上じゃないといないんですね。そうすると若い保健師さんたちは何をどうやっていいかわからないということで、試行錯誤しながら、とにかく地域に行って地域の人のお話をよく聞いてきなさいと、それをみんなで共有しながらどういったことが出来るかっていうところを今、喧々諤々いろんなことをやっています。そんな中でこちらは老健施設ももっていますので、いろんな地域包括支援センターと連携しながら地域の中でのネットワークを使って対応していければと思っていますのでよろしくお願いします。一点だけ先ほど小児科と産婦人科を休診していると伺ったんですけど、太白区の場合、特定妊婦さんですとか病気の児童さんの数が他の区に比べて多いので、そういう観点からいくとこれを再開して頂くと大変ありがたいんですけどいかがでしょうか。

:朝倉院長

当院も医師不足に大変頭を悩ませていまして、小児科はずっと不在で、産婦人科も何年も不在でやはりこれは大学の人事派遣の条件が昔と変わって、一人では出さないということになっていて複数の医師を受け入れるくらいのキャパシティがないと難しい状況です。ニーズに応えなければいけないところですが、フリーで来るようなドクターがいれば受け入れたいと思いますが、なかなか大学からの医師派遣は厳しいところなんです。

6. 閉会の挨拶 秋野副院長

本日は遅くまでご出席を頂きありがとうございました。

また、大変貴重なご意見を賜りありがとうございました。ご意見を明日からの業務に活かしていきたいと思えます。本日は、大変ありがとうございました。